

## 日本の大学生の薬物乱用に関する意識，実態とその 背景：第2報：2012年度の結果との比較検討を含めた 2014年度の調査

入江，正洋  
九州大学キャンパスライフ・健康支援センター

<https://doi.org/10.15017/4372023>

---

出版情報：健康科学. 43, pp.127-137, 2021-03-25. 九州大学健康科学編集委員会  
バージョン：  
権利関係：

—原 著—

日本の大学生の薬物乱用に関する意識、実態とその背景  
第2報：2012年度の結果との比較検討を含めた2014年度の調査

入江正洋\*

Recognition, actual states, and their social backgrounds toward  
drug abuse among Japanese university students  
2nd report: A survey in 2014 including comparison with 2012 findings

Masahiro IRIE\*

**Abstract**

The aim of this cross-sectional study was to investigate actual states of the use of illegal drugs and possible abuse-related factors among Japanese university students in 2014. Furthermore, the results were analyzed in comparison with the findings in 2012. As a result, 69 subjects with illegal drug abuse were selected out of 13993 screened (0.5%), and the number decreased compared to 114 subjects of the 2012 survey. Cannabis was used more frequently. The main purpose of using illegal drugs was out of interest. The use of illegal drugs was strongly associated with the presence of surrounding illegal drug users, the experience that received invitation to drug abuse, and tattoos in this study. Psychological factors, such as self-esteem and general health, were also related to illegal substance use. This study suggests a downward trend for the number of drug abuse from 2012 to 2014, and the effect of a drug abuse prevention program including psychological approaches toward university and secondary school students.

**Key Words:** illegal drugs, drug abuse, tattoo, cannabis, interest, self-esteem, general health, university

(Journal of Health Science, Kyushu University, 43: 127-137, 2021)

## はじめに

近年、自由主義、個人主義、人々の行動様式の変化や価値観の多様化、核家族化と少子高齢化など、社会環境は大きく変化し、その結果日本人本来の美德が失われ、教育の荒廃、犯罪の多発などの現象が露呈し始めている。若者の薬物乱用も、こうした社会環境の変化と無縁ではなく、違法薬物に関する規範意識の低下、大麻草グッズやタトゥーなどの個性的ともいえるアウトロー的なファッションの志向、誤った自己主張手段、などと深く結びついているものと思われる<sup>2)</sup>。本邦は、欧米などの先進国と比べて薬物汚染がかなり少ない<sup>3)</sup>が、今後もそうした傾向を保持・強化できるか否かは、如何に若者の薬物乱用を防止できるかにかかっていると看做しても過言ではない。そのためには、大学生を始めとする若者の薬物乱用と社会環境との関係についての詳細を明らかにする必要があるが、本邦における今後の薬物乱用の動向を占ううえでも重要である。

このような趣旨に基づき、2012年度に某大学の学生を対象として、これまであまり注目されていなかった、ファッションやギャンブル、心理社会的要因などの、様々な観点から違法薬物乱用に関する調査を実施した。その結果、2012年の調査時期よりもかなり遅れたものの、①解析対象者13960名のうち114名(0.8%)の大学生、特に男性を中心に違法薬物使用経験が認められ、約3.4%の無回答者を考慮すれば、さらに多くの大学生が違法薬物と接している可能性がある、②違法薬物の使用は、違法薬物の入手、違法薬物使用の被勧誘経験、タトゥー、大麻草グッズの所持、ギャンブル・喫煙習慣、精神的健康度などと関連している、③違法薬物使用に対して少なからず興味がある割合は0.4~1.0%で、その興味には、薬物乱用に関する認識や身近さ、周囲の違法薬物使用者の存在、親しい人からの違法薬物使用の勧誘を断れない性格、タトゥー、大麻草グッズの所持、ギャンブル・喫煙・飲酒の習慣(特に飲酒)、周囲の支援、ストレス対処行動などの要因が関係している、④違法薬物の使用では、興味と比べて、タトゥーや大麻草グッズなどの、個性的あるいは潜在的なファッションへの志向、ギャンブルや喫煙の習慣、違法薬物に関する直接的な手段や経験といった要因が特に関与しやすい、などの知見が得られ、2020年に報告した<sup>2)</sup>。

すなわち、前回の報告<sup>2)</sup>によって、某大学における違法薬物への興味や使用実態、およびその背景が、ファッションや様々な習慣などを含めた包括的な観点から明らかとなり、性別による違いも示唆された。

しかし、質問項目への回答率が低下することを懸念しすぎたことから、違法薬物に関して、使用経験がある場合や周囲に使用者がいた場合の具体的薬物名、勧誘された際の具体的対応と薬物名、使用目的などの事柄を対象者に直接質問することを控え、これらが未解明なままとなった。前回の調査<sup>2)</sup>では、過去の違法薬物の使用が多いことが推測されたため、若者で無視できない有機溶剤によるシンナー遊び<sup>4)</sup>についても薬物乱用の選択肢に加えた方がよいものと思われた。

また、心理要因に関して、前回の調査<sup>2)</sup>では、薬物乱用は精神的不健康者で多いことを推測していたが、予想に反して、違法薬物使用経験者の精神的健康度が良好であり、興味とは有意な関係がなかった。情緒的支援に関しては、家族の支援を中心に、支援が少ない方が違法薬物使用の経験や興味が多いことが示唆されたが、大学の支援の少なさは違法薬物使用の興味とはいくらか関連していたものの、実際の使用とは有意な関係がみられなかった。ストレス対処行動についても、違法薬物使用経験との有意な関係はなく、違法薬物使用の興味に関して、大麻、覚せい剤(男性)、コカイン、MDMAにおいて、ストレス対処行動が不適切な場合に有意に興味を抱きやすいことが認められた。

これらのうち、特に精神的健康度は予想に反する結果であったため、本当に違法薬物使用経験者で良好か否かをさらなる調査で確かめる必要があるものと思われた。情緒的支援に関しては、家族や大学などで必ずしも一致した結果が得られたわけではなく、それだけ大学よりも家族の支援の方が重要とも考えられたが、別の質問紙で評価することにした。ストレス対処行動も、違法薬物使用の興味と関連していたものの、違法薬物使用経験との関係がなかったため、自尊心や周囲の人からの影響の受け易さなどの観点から再度検討を試みるのが望ましいものと思われた。すなわち、前回の調査<sup>2)</sup>で、違法薬物の興味や実際の使用に関して、周囲の違法薬物使用者の存在や使用の被勧誘経験、親しい人からの違法薬物使用の勧誘を断り切れない性格などが関係していることを報告したが、周囲の人からの影響の受け易さや受け難さを直接調べるために、今回の調査では被影響性や自尊心を検討することを試みた。したがって、今回の調査では、新たに日本語版「ソーシャル・サポート尺度」(岩佐ら)<sup>5)</sup>、自尊心尺度(Rosenberg)<sup>6)</sup>、被影響性尺度(鈴木・木野)<sup>7)</sup>を使用して評価し、精神的健康度に関する結果を確かめるために、2012年度の調査<sup>2)</sup>と同じGeneral Health Questionnaire

(GHQ)の12項目版<sup>8)</sup>を用いた。

その他、前回の調査<sup>2)</sup>では、タトゥーや大麻草グッズなどの、個性的あるいは潜在的なファッションへの志向、ギャンブル習慣などの、これまであまり注目されていない要因が違法薬物使用に関連していることを認めたが、1回限りの横断的調査であったため、こうした傾向が継続的にみられるか否かを確かめる必要があるものと考えられた。また、ピアスと比べてタトゥーが、違法薬物の使用や興味と密接に関わっていたものの、前回の調査<sup>2)</sup>ではピアスの部位を特定していなかったため、タトゥーと同様な身体装飾の意味を持ちやすいとされている耳以外のボディへのピアス<sup>9)</sup>の薬物乱用との関係は不明であった。そのため、耳と耳以外のボディピアスを別々に分けて検討することが望ましいものと思われた。

一般に、違法薬物乱用に関する調査は非常に機微な内容を含んでいるため、どうしても無記名で行うことにならざるを得ない。そのため、同一人の推移を調べる縦断的調査は実施し難く、同一に近い集団を対象とした繰り返しの横断的調査によって、一定の傾向の有無を推測することが妥当と考えられる。

このような反省点を踏まえながら、前回の調査<sup>2)</sup>と同じ大学の学生を対象として、①全体的な違法薬物使用経験の推移を評価する、②シンナー類も含めた個別の違法薬物使用経験、特に社会問題化していたMDMAや脱法ハーブの使用経験を明らかにする、③違法薬物の使用目的(単なる興味・ストレス解消・友人や恋人からの勧め・勧誘を断り切れず・性的興奮を得るため・強引な使用)を検討する、④タトゥーやピアス、大麻草グッズの所持、ギャンブル・喫煙習慣などの危険因子が、今回の調査でも違法薬物使用経験に関連する要因として認められるか否かを確認する、⑤ピアスの関与に関して、耳と耳以外のボディピアスの装飾実態を明らかにし、それぞれに分けて検討する、⑥違法薬物使用経験の心理的背景について、精神的健康度を含めて、社会的支援や自尊感情、被影響性などの観点からさらに検討する、ことなどを主な目的として今回の調査を実施した。これらの目的のうち、②について検討するために、大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類の個別の違法薬物について使用経験の有無を尋ねた。①に関しては、今回は前回2012年の調査<sup>2)</sup>のような全体的な違法薬物使用経験の有無を直接尋ねる質問項目を設けなかったが、前回の違法薬物使用経験と比較するために、個別の違法薬物使用からシンナー類を

除く大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMAいずれかの違法薬物使用割合を算出した。④については、2012年の調査<sup>2)</sup>との比較を行うために同一の質問項目を用いた。

さらに今回は、周囲に違法薬物使用者が存在した場合や違法薬物の被勧誘経験がある場合は、具体的な薬物の種類(大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類)を質問した。

また、前回2012年の調査<sup>2)</sup>では、違法薬物使用の被勧誘経験や親しい人からの勧誘時の対応を別に質問したが、今回の調査では、違法薬物使用を勧誘された経験がある場合はその際の使用の有無まで求め、使用した場合には具体的な薬物の種類を尋ねた。

今回の研究では、前回の調査<sup>2)</sup>で実施したような違法薬物に対する興味の背景は検討せずに、違法薬物の使用に焦点を当てた検討を行った。

なお、脱法ハーブは現在危険ドラッグと称されているが、本論文では調査当時に用いられていた脱法ハーブ(ドラッグ)の呼称をそのまま使用した。また、無記名とはいえ、非常に機微な内容を含んでいたため、調査当時の学生の多くが卒業した時期まで待つて論文で公表することにした。そのため、現代の大学生の意識とは若干異なっている可能性がある。

## 対象と方法

調査対象は、2014年4月に学生定期健康診断を受けたX大学の学生14168名である。このうち、質問紙調査に同意して回答した13993名を解析対象とした(回収率98.8%)。内訳は、男性9910名、女性4030名、不明53名で、年齢は $21.8 \pm 3.7$ 歳(平均 $\pm$ 標準偏差)である。ちなみに、2012年度の調査<sup>2)</sup>では、同じX大学の学生14125名のうちの13960名(回収率98.8%)が解析対象であり、男性9803名、女性4127名、不明30名で、年齢は $21.9 \pm 3.8$ 歳であった。したがって、今回の対象者数や回収率は2012度とほぼ同等である。調査に際して、前回と同様に、学会や論文等で結果を公表することがある、教育や研究以外の目的には調査結果を使用しない、調査の参加者が同定されることはない、などの事柄を書面で説明し、質問紙に回答することで同意が得られたものとした。

質問項目は、年齢、性別、課程などの属性、大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類それぞれの違法薬物使用に対する興味、違法薬物の入手と入手経路、周囲の違法薬物使用者の存在と薬物の

種類、違法薬物使用の被勧誘経験と実際に勧誘された際の使用の有無（薬物名を含む）、親しい人からの違法薬物使用の勧誘への対応、薬物別の自身の違法薬物使用経験と使用目的、ギャンブル・喫煙・飲酒習慣、芳香剤やTシャツなどの大麻草グッズの所持と大麻草との認識、ピアス（耳と耳以外）やタトゥーの有無、進学状況、岩佐らの日本語版「ソーシャル・サポート尺度」<sup>5)</sup>、Rosenbergによる自尊感情尺度の日本語版<sup>6,10)</sup>、鈴木と木野による多次元共感性尺度(MES)の被影響性尺度<sup>7)</sup>、精神的健康度を表すGHQ12項目版<sup>8)</sup>などからなる。独自の質問項目は、2-5件法による選択肢とした。周囲の違法薬物の使用者は、あり、なしでの返答を求め、不明を削除した。ギャンブル習慣では、ギャンブルの例として、パチンコ、賭け麻雀、競艇、競馬に関する習慣を尋ねた。

ちなみに、岩佐らの日本語版「ソーシャル・サポート尺度」<sup>5)</sup>は、Zimetらが開発した「Multidimensional Scale of Perceived Social Support (MSPSS)」<sup>11)</sup>の日本語版である。「家族のサポート」、「大切な人のサポート」、「友人のサポート」を中心として、12項目から構成されているが、今回は全体的なサポートの集計を行った。Rosenbergの自尊感情尺度<sup>6)</sup>は多くの翻訳版が作成されており、本研究では信頼性や妥当性が十分に明らかとなっている、Mimura & Griffithsの日本語版自尊感情尺度<sup>10,12)</sup>を用いた。他者からの違法薬物使用の勧誘にかられて自分を見失うか否かを評価するために加えた。鈴木と木野による多次元共感性尺度(MES)<sup>7)</sup>は、「他者指向的反応」、「自己指向的反応」、「被影響性」、「視点取得」、「想像性」の下位尺度からなる24項目の質問紙である。このうちの、被影響性（他者の心理状態に対する素質的な巻き込まれ易さ）を表す5項目を今回の調査では使用した。日本語版「ソーシャル・サポート尺度」<sup>5)</sup>、日本語版自尊感情尺度<sup>10,12)</sup>、被影響性尺度<sup>7)</sup>は得点が高い方が良好な状態を表すものとした。GHQ12項目版<sup>8)</sup>は、GoldbergによるGHQ得点法で集計し、カットオフポイントとされている2点と3点の間で低得点群と高得点群（精神的健康度に問題がある可能性を有する）の2群に分類した<sup>13)</sup>。なお、今回の調査にあたって、違法薬物使用経験は、社会的支援の少なさ、自尊感情の低さ、他者からの影響の受け易さと関連していることを想定した。本調査は、九州大学健康科学センター倫理委員会の承認を受けた。

統計処理は、SPSS version 17.0を使用して行い、 $P < 0.05$ の場合に統計学的に有意とした。まず、調査結果の概要

を明らかにし、違法薬物使用経験の有無と各因子との関係を $\chi^2$ 検定やFisher直接確率検定で調べた。心理要因に関しては、違法薬物使用経験の有無でt検定を行った。そして、違法薬物使用経験の有無を従属変数、 $\chi^2$ 検定やFisher直接確率検定、t検定において違法薬物使用経験との関連傾向（ $P < 0.1$ ）を有する因子を独立変数とする多重ロジスティック回帰分析を行った。その際、大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類別の違法薬物では、使用経験者数が少ないことが推測されたことから、統計学的検出力を向上させるために、個別にはではなく、いずれかの違法薬物使用経験の有無を従属変数とした。このような解析を全対象者で行い、次に性差に関する検討を男女別に実施した。

## 結果

### 調査結果の概要

今回の調査における主な薬物および嗜癖関連の結果を表1に示す。大麻を筆頭に違法薬物使用の興味を抱く者がわずかながら存在し、違法薬物の入手は過半数の者が難しいと感じていたものの、容易と考える者も少なくなかった。入手する場合の入手経路に関しては、「インターネット」が最も多く、次いで「入手は絶対に無理」、「売人（路上など）」、「知人」、「その他」の順であった（重複回答）。これまでの周囲の違法薬物使用者の存在は約3.1%で、大麻、シンナー類、脱法ハーブ、覚せい剤、コカイン、MDMAの順に多かった。

違法薬物使用の被勧誘経験は約0.9%（121名）で、大麻、脱法ハーブ、覚せい剤・シンナー類、コカイン、MDMAの順であった。今回新たに尋ねた勧誘時の対応に関しては、28名の学生が実際に使用していた。その薬物は、大麻（10名）、覚せい剤（1名）、無回答（17名）と、多くは大麻と思われた。親しい人から違法薬物使用の勧誘を受けた際の対応に関しては、断る方向の者が圧倒的に多かったが、断らない方向のものも約1.4%認められた。

被勧誘経験とは関係なく違法薬物の使用歴について尋ねたところ、大麻（46名）、脱法ハーブ（34名）、覚せい剤（33名）、コカイン（32名）、MDMA（32名）、シンナー類（35名）での使用歴が認められた。この違法薬物使用経験者の使用目的も今回尋ねたが、「単なる興味」が15名、「友人（恋人）から勧められて」が10名、「ストレス解消」が5名であり、「勧誘を断り切れず」、「性的興奮を得るため」、「強引に使用させられた」はいなかった（重複回答）。被勧誘経験とは関係なくい

表1 薬物及び嗜癖関連の主な調査結果(2014年度)

1. 以下の違法薬物を使用してみたいという興味がありますか。  
 ・大麻：(1)とてもある(0.3%) (2)どちらかといえばある(0.5%) (3)どちらかといえばない(0.5%) (4)全くない(98.4%) 無回答(0.3%)  
 ・脱法ハーブ：(1)とてもある(0.2%) (2)どちらかといえばある(0.2%) (3)どちらかといえばない(0.3%) (4)全くない(99.0%) 無回答(0.3%)  
 ・覚せい剤：(1)とてもある(0.1%) (2)どちらかといえばある(0.2%) (3)どちらかといえばない(0.3%) (4)全くない(99.1%) 無回答(0.3%)  
 ・コカイン：(1)とてもある(0.1%) (2)どちらかといえばある(0.2%) (3)どちらかといえばない(0.3%) (4)全くない(99.2%) 無回答(0.3%)  
 ・MDMA：(1)とてもある(0.1%) (2)どちらかといえばある(0.1%) (3)どちらかといえばない(0.3%) (4)全くない(99.2%) 無回答(0.3%)  
 ・シンナー類：(1)とてもある(0.2%) (2)どちらかといえばある(0.1%) (3)どちらかといえばない(0.3%) (4)全くない(99.2%) 無回答(0.3%)
2. 違法薬物を手に入れることは、どの程度難しいあるいは容易ですか。  
 (1)難しい(51.0%) (2)どちらかといえば難しい(17.4%) (3)どちらかといえば容易(7.4%) (4)容易(32.3%) 無回答(0.8%)
3. 違法薬物入手する場合どのような方法(経路)であれば可能ですか(重複回答)。  
 (1)知人(14.6%) (2)売人(路上など)(18.8%) (3)インターネット(39.9%) (4)その他(1.8%) (5)入手は絶対に無理(37.0%) 無回答(1.4%)
4. あなたの周りにこれまで違法薬物を使用した方がいましたか。  
 (1)いた(3.1%) (大麻119名 脱法ハーブ71名 覚せい剤54名 コカイン13名 MDMA7名 シンナー類113名) (2)いなかった(93.8%) 無回答(3.1%)
5. 今までに違法薬物の使用に誘われたことがありますか。  
 (1)ある(0.9%) (大麻54名 脱法ハーブ11名 覚せい剤8名 コカイン4名 MDMA1名 シンナー類8名) (2)ない(98.3%) 無回答(0.8%)
6. 誘われたことがある方だけに質問します。その際どうされましたか。  
 (1)使用した(28名) (大麻10名 脱法ハーブ0名 覚せい剤1名 コカイン0名 MDMA0名 シンナー類0名) (2)使用しなかった(90名) 無回答(3名)
7. 親しい人から違法薬物を勧められた場合どうしますか。  
 (1)断る(95.2%) (2)どちらかといえば断る(2.9%) (3)どちらかといえば断らない(0.2%) (4)断らない(1.2%) 無回答(0.6%)
8. 以下の違法薬物の使用について正確にお答えください。  
 ・大麻：(1)使用したことがある(0.3%) (2)使用していない(98.7%) 無回答(1.0%)  
 ・脱法ハーブ：(1)使用したことがある(0.2%) (2)使用していない(98.8%) 無回答(1.0%)  
 ・覚せい剤：(1)使用したことがある(0.3%) (2)使用していない(98.8%) 無回答(1.0%)  
 ・コカイン：(1)使用したことがある(0.2%) (2)使用していない(98.8%) 無回答(1.0%)  
 ・MDMA：(1)使用したことがある(0.2%) (2)使用していない(98.8%) 無回答(1.0%)  
 ・シンナー類：(1)使用したことがある(0.3%) (2)使用していない(98.8%) 無回答(1.0%)
9. 使用経験がある方だけにお尋ねします。使用目的は何ですか(重複回答)。  
 (1)単なる興味(15名) (2)ストレス解消(5名) (3)友人(恋人)から勧められた(10名) (4)勧誘を断り切れず(0名) (5)性的興奮を得るため(0名) (6)強引に使用させられた(0名) 無回答(22名)
10. パチンコや賭けマージャン、競艇、競馬などのギャンブルをどの位しますか。  
 (1)ほとんどいつもする(0.7%) (2)しばしばする(3.0%) (3)ときどきする(8.3%) (4)全くしない(87.3%) 無回答(0.7%)
11. 喫煙について、あてはまるものを選んでください。  
 (1)吸う(6.2%) (2)以前吸っていたがやめた(3.4%) (3)吸わない(90.0%) 無回答(0.4%)
12. 飲酒について、あてはまるものを選んでください。  
 (1)よく飲む(週4回以上)(4.3%) (2)時々飲む(週1~3回)(19.6%) (3)たまに飲む(週1回未満)(40.6%) (4)全く飲まない(35.3%) 無回答(0.4%)
13. 大麻草の葉の形をしたグッズ(芳香剤やシャツなど)を持っていますか。  
 (1)持っている(1.0%) (2)持っていない(98.3%) 無回答(0.6%)
14. そのようなグッズ(芳香剤やシャツなど)が大麻草を意味することを知っていましたか。  
 (1)知っていた(41.9%) (2)知らなかった(56.2%) 無回答(1.9%)
15. ピアスとタトゥーに関して、それぞれあてはまるものを選んでください。  
 ピアス：(1)耳にしている(7.7%) (2)耳以外にしている(0.1%) (3)していないが、これからしてみたい(6.9%) (4)していない、これからはしない(84.2%) 無回答(1.1%)  
 タトゥー：(1)入れている(0.2%) (2)入っていないが、これから入りたい(0.6%) (3)入っていない、これからは入れない(98.0%) 無回答(1.2%)

表2 違法薬物使用経験と各種因子との関係

因子	違法薬物使用経験		χ <sup>2</sup>	P
	なし (N=13788)	あり (N=69)		
性別				
女性	3981 (99.7%)	11 (0.3%)	5.659	0.017
男性	9768 (99.4%)	58 (0.6%)		
課程				
学部	8969 (99.6%)	35 (0.4%)	8.283	0.041
修士	3413 (99.4%)	22 (0.6%)		
博士	1322 (99.1%)	12 (0.9%)		
その他	74 (100.0%)	0 (0.0%)		
大麻使用の興味				
ない方	13782 (99.5%)	63 (0.5%)	39.394	0.000
ある方	101 (94.4%)	6 (5.6%)		
脱法ハーブ使用の興味				
ない方	13842 (99.5%)	64 (0.5%)	98.613	0.000
ある方	42 (89.4%)	5 (10.6%)		
覚せい剤使用の興味				
ない方	13846 (99.5%)	65 (0.5%)	69.797	0.000
ある方	38 (90.5%)	4 (9.5%)		
コカイン使用の興味				
ない方	13848 (99.5%)	65 (0.5%)	73.659	0.000
ある方	36 (90.0%)	4 (10.0%)		
MDMA使用の興味				
ない方	13852 (99.5%)	65 (0.5%)	85.243	0.000
ある方	31 (88.6%)	4 (11.4%)		
シンナー類使用の興味				
ない方	13751 (99.5%)	65 (0.5%)	99.946	0.000
ある方	28 (87.5%)	4 (12.5%)		
違法薬物入手				
難しい方	9485 (99.6%)	39 (0.4%)	5.193	0.023
容易な方	4217 (99.3%)	30 (0.7%)		
周囲の違法薬物使用				
なし	13002 (99.7%)	42 (0.3%)	241.261	0.000
あり	398 (94.3%)	24 (5.7%)		
違法薬物使用の被勧誘経験				
なし	13625 (99.7%)	44 (0.3%)	954.979	0.000
あり	94 (79.7%)	24 (20.3%)		
親しい人からの違法薬物使用勧誘への対応				
断る方	13568 (99.5%)	63 (0.5%)	5.866	0.049
断らない方	169 (98.3%)	3 (1.7%)		
パチンコ、賭け麻雀、競艇、競馬など				
しない	12086 (99.6%)	48 (0.4%)	51.822	0.000
する(ときどき以上)	1642 (98.8%)	20 (1.2%)		
喫煙				
吸わない	12906 (99.6%)	58 (0.4%)	11.479	0.003
吸う(現在)	840 (98.7%)	11 (1.3%)		
飲酒				
飲まない	4878 (99.7%)	14 (0.3%)	6.865	0.009
飲む(たまに以上)	8900 (99.4%)	55 (0.6%)		
大麻草グッズ(芳香剤やTシャツなど)の所持				
なし	13599 (99.6%)	61 (0.4%)	51.822	0.000
あり	148 (95.5%)	7 (4.5%)		
ピアス				
なし	12595 (99.6%)	55 (0.4%)	9.553	0.002
あり	1064 (98.9%)	12 (1.1%)		
タトゥー				
なし	13619 (99.6%)	61 (0.4%)	227.481	0.000
あり	17 (77.3%)	5 (22.7%)		
大学入学後の進学状況				
留年しない程度に単位を取得	9807 (99.4%)	58 (0.6%)	1.347	0.447
単位取得が不十分(留年未定)	367 (99.5%)	2 (0.5%)		
留年(留年予定)	513 (99.0%)	5 (1.0%)		
精神的健康度				
健康	10416 (99.6%)	44 (0.4%)	1.955	0.162
不健康	3251 (99.4%)	20 (0.6%)		

いずれかの違法薬物を使用した者は全部で52名であったが、それ以外に、この質問に未使用と回答した者の中で上記の被勧誘時の実際の使用者が17名存在していたため、合計69名(男性58名、女性11名)が最終的な使用経験者と考えられた。これらのうち、シンナー類を除く2012年度と同様な違法薬物使用経験者は66名(男性55名、女性11名)であった。

ギャンブル習慣がある者は時々までの頻度を含めて約12.0%、現在喫煙習慣がある者は約6.2%、飲酒習慣はたまの頻度も含めて約64.5%であった。大麻草グッズが大麻草を意味することを知っていた者は約41.9%であったが、大麻草グッズの所持率は約1.0%と低かった。タトゥーをしている者は25名(約0.2%)で、ピアスに関しては、耳以外のボディピアスのみの11名に対して、

表3 男性の違法薬物使用経験と各種因子との関係

因子	違法薬物使用経験		$\chi^2$	P
	なし (N=9768)	あり (N=58)		
課程				
学部	6257 (99.5%)	31 (0.5%)	4.046	0.257
修士	2550 (99.3%)	18 (0.7%)		
博士	919 (99.0%)	9 (1.0%)		
その他	37 (100.0%)	0 (0.0%)		
大麻使用の興味			52.702	0.000
ない方	9745 (99.5%)	52 (0.5%)		
ある方	91 (93.8%)	6 (6.2%)		
脱法ハーブ使用の興味			97.817	0.000
ない方	9801 (99.5%)	53 (0.5%)		
ある方	35 (87.5%)	5 (12.5%)		
覚せい剤使用の興味			68.678	0.000
ない方	9804 (99.5%)	54 (0.5%)		
ある方	32 (88.9%)	4 (11.1%)		
コカイン使用の興味			73.154	0.000
ない方	9806 (99.5%)	54 (0.5%)		
ある方	30 (88.2%)	4 (11.8%)		
MDMA使用の興味			87.041	0.000
ない方	9810 (99.5%)	54 (0.5%)		
ある方	25 (86.2%)	4 (13.8%)		
シンナー類使用の興味			94.053	0.000
ない方	9813 (99.5%)	54 (0.5%)		
ある方	23(85.2%)	4 (14.8%)		
違法薬物入手			2.301	0.129
難しい方	6595 (99.5%)	34 (0.5%)		
容易な方	3111 (99.2%)	24 (0.8%)		
周囲の違法薬物使用			181.057	0.000
なし	9196 (99.6%)	35 (0.4%)		
あり	308 (93.9%)	20 (6.1%)		
違法薬物使用の被勧誘経験			572.935	0.000
なし	9633 (99.6%)	38 (0.4%)		
あり	84 (81.6%)	19 (18.4%)		
親しい人からの違法薬物使用勧誘への対応			7.631	0.033
断る方	9611 (99.5%)	53 (0.5%)		
断らない方	120 (97.6%)	3 (2.4%)		
パチンコ、賭け麻雀、競艇、競馬など			13.921	0.000
しない	8140 (99.5%)	38 (0.5%)		
する(ときどき以上)	1584 (98.8%)	20 (1.2%)		
喫煙			9.559	0.006
吸わない	8969 (99.5%)	47 (0.5%)		
吸う(現在)	772 (98.6%)	11 (1.4%)		
飲酒			5.542	0.019
飲まない	3280 (99.7%)	11 (0.3%)		
飲む(たまに以上)	6482 (99.3%)	47 (0.7%)		
大麻草グッズ(芳香剤やTシャツなど)の所持			52.912	0.000
なし	9618 (99.5%)	51 (0.5%)		
あり	120 (94.5%)	7 (5.5%)		
ピアス			21.751	0.001
なし	9437 (99.5%)	50 (0.5%)		
あり	242 (97.2%)	7 (2.8%)		
タトゥー			276.489	0.000
なし	9658 (99.5%)	52 (0.5%)		
あり	10 (66.7%)	5 (33.3%)		
大学入学後の進学状況			0.453	0.746
留年しない程度に 単位を取得	6842 (99.3%)	46 (0.7%)		
単位取得が不十分 (留年未定)	291 (99.3%)	2 (0.7%)		
留年(留年予定)	419 (99.1%)	4 (0.9%)		
精神的健康度			5.018	0.025
健康	7515 (99.5%)	35 (0.5%)		
不健康	2172 (99.1%)	19 (0.9%)		

表4 女性の違法薬物使用経験と各種因子との関係

因子	違法薬物使用経験		$\chi^2$	P
	なし (N=4020)	あり (N=11)		
課程				
学部	2712 (99.9%)	4 (0.1%)	6.040	0.074
修士	863 (99.5%)	4 (0.5%)		
博士	403 (99.3%)	3 (0.7%)		
その他	37 (100.0%)	0 (0.0%)		
大麻使用の興味			0.028	1.000
ない方	3998 (99.7%)	11 (0.3%)		
ある方	10 (100.0%)	0 (0.0%)		
脱法ハーブ使用の興味			0.019	1.000
ない方	4002 (99.7%)	11 (0.3%)		
ある方	7 (100.0%)	0 (0.0%)		
覚せい剤使用の興味			0.016	1.000
ない方	4003 (99.7%)	11 (0.3%)		
ある方	6 (100.0%)	0 (0.0%)		
コカイン使用の興味			0.016	1.000
ない方	4003 (99.7%)	11 (0.3%)		
ある方	6 (100.0%)	0 (0.0%)		
MDMA使用の興味			0.016	1.000
ない方	4003 (99.7%)	11 (0.3%)		
ある方	6 (100.0%)	0 (0.0%)		
シンナー類使用の興味			0.014	1.000
ない方	4004 (99.7%)	11 (0.3%)		
ある方	5 (100.0%)	0 (0.0%)		
違法薬物入手			3.950	0.083
難しい方	2890 (99.8%)	5 (0.2%)		
容易な方	1106 (99.5%)	6 (0.5%)		
周囲の違法薬物使用			54.173	0.000
なし	3806 (99.8%)	7 (0.2%)		
あり	90 (95.7%)	4 (4.3%)		
違法薬物使用の被勧誘経験			601.662	0.000
なし	3990 (99.8%)	6 (0.2%)		
あり	10 (66.7%)	5 (33.3%)		
親しい人からの違法薬物使用勧誘への対応			0.124	1.000
断る方	3957 (99.7%)	10 (0.3%)		
断らない方	49 (100.0%)	0 (0.0%)		
パチンコ、賭け麻雀、競艇、競馬など			0.147	1.000
しない	3946 (99.7%)	10 (0.3%)		
する(ときどき以上)	58 (100.0%)	0 (0.0%)		
喫煙			0.190	1.000
吸わない	3937 (99.7%)	11 (0.3%)		
吸う(現在)	68 (100.0%)	0 (0.0%)		
飲酒			0.718	0.543
飲まない	1598 (99.8%)	3 (0.2%)		
飲む(たまに以上)	2418 (99.7%)	8 (0.3%)		
大麻草グッズ(芳香剤やTシャツなど)の所持			0.070	1.000
なし	3981 (99.7%)	10 (0.3%)		
あり	28 (100.0%)	0 (0.0%)		
ピアス			5.258	0.001
なし	3158 (99.9%)	5 (0.2%)		
あり	822 (99.4%)	5 (0.6%)		
タトゥー			0.016	1.000
なし	3961 (99.8%)	9 (0.2%)		
あり	7 (100.0%)	0 (0.0%)		
大学入学後の進学状況			1.630	0.460
留年しない程度に 単位を取得	2965 (99.7%)	10 (0.3%)		
単位取得が不十分 (留年未定)	76 (100.0%)	0 (0.0%)		
留年(留年予定)	94 (98.9%)	1 (1.1%)		
精神的健康度			1.479	0.305
健康	2901 (99.7%)	9 (0.3%)		
不健康	1079 (99.9%)	1 (0.1%)		

耳ピアスのみが1075名と圧倒的に多く、両方のピアスが5名であった。

#### 違法薬物使用経験と各種因子との関係

$\chi^2$ 検定やFisher直接確率検定によって、大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類の何らかの違法薬物使用経験に有意に関係する因子について、無回答者を除いて検討した。心理要因のうち、カッ

トオフポイントが設定されているGHQ12項目版<sup>8,13)</sup>による精神的健康度も解析に含めた(表2)。

その結果、全回答者(69名)では、性別(女性と比べて男性)、課程(学部よりも大学院などの方)、各種の違法薬物それぞれにおける薬物使用の興味(ない方と比べてある方)、違法薬物の入手(難しい方と比べて容易な方)、周囲の違法薬物使用(ない方と比べてある方)、違法薬物使用の被勧誘経験(ない方と比べてある

表5 違法薬物使用経験と心理要因との関係

因子	違法薬物未使用者	違法薬物使用経験者	t 値	P
社会的支援	71.3±149.7	69.4±230.4	-1.301	0.193
自尊感情	27.1±30.5	25.8±27.3	-2.005	0.045
被影響性	14.6±12.9	14.5±9.5	-0.309	0.758
精神的健康度	2.1±7.3	2.7±11.0	1.717	0.086
平均±標準偏差				

表6 男性における違法薬物使用経験と心理要因との関係

因子	違法薬物未使用者	違法薬物使用経験者	t 値	P
社会的支援	70.1±159.4	68.4±239.7	-1.013	0.311
自尊感情	27.2±30.9	25.4±28.1	-2.481	0.013
被影響性	14.4±13.1	14.6±9.2	0.370	0.712
精神的健康度	2.0±7.2	2.8±11.6	2.244	0.025
平均±標準偏差				

表7 女性における違法薬物使用経験と心理要因との関係

因子	違法薬物未使用者	違法薬物使用経験者	t 値	P
社会的支援	74.4±113.3	75.2±153.7	0.240	0.810
自尊感情	26.1±29.7	27.9±19.1	0.587	0.557
被影響性	15.1±12.2	13.8±12.0	-1.190	0.234
精神的健康度	2.3±7.5	1.8±8.0	-0.549	0.583
平均±標準偏差				

方)、親しい人からの違法薬物使用の勧誘への対応(断る方と比べて断らない方)、ギャンブル習慣(しない方と比べてする方)、喫煙習慣(吸わない方と比べて吸う方)、飲酒習慣(飲まない方と比べて飲む方)、大麻草グッズの所持(ない方と比べてある方)、ピアス(ない方と比べてある方)、タトゥー(ない方と比べてある方)が、それぞれ有意に違法薬物の使用経験と関連していた。なお、ピアスに関しては、耳と耳以外のボディに分けて尋ねたものの、耳以外のボディピアスのみが11名、両方のピアスの5名と併せてもボディピアスが全体で16名に過ぎなかった。そのため、ボディピアスは耳ピアスと併せて解析を行った。

男女別の解析では、男性(58名)は全対象者と同様な結果であり、過程や違法薬物の入手が有意ではなく、逆に精神的健康度(健康な方と比べて不健康な方)が有意に違法薬物使用経験と関連していた(表3)。女性(11名)では、周囲の違法薬物使用、違法薬物使用の被勧誘経験、ピアスが有意に違法薬物使用経験と関連していた(表4)。

表8 2012年度と2014年度の主な調査結果の比較

因子	2012年	2014年度	χ <sup>2</sup>	P
解析対象者(回収率)	13960名(98.8%)	13993名(98.8%)	0.288	0.605
違法薬物使用経験者	114名(0.8%)	66名(0.5%)	12.997	0.000
各種違法薬物使用の興味が少しでもある者*	0.4%~1.0%	0.3%~0.8%		
違法薬物の入手が少しでも容易な者	3342名(24.1%)	4295名(30.9%)	163.232	0.000
周囲の違法薬物使用者	250名(1.8%)	427名(3.3%)	51.141	0.000
違法薬物使用の被勧誘経験者	133名(1.0%)	121名(0.9%)	0.930	0.335
違法薬物使用の勧誘を少しでも断らない者	226名(1.6%)	172名(1.2%)	7.370	0.007
ギャンブル習慣がある者(時々まで)	2387名(17.2%)	1679名(12.1%)	145.084	0.000
喫煙者(現在)	1018名(7.3%)	863名(6.2%)	14.083	0.000
飲酒者(たまの飲酒まで)	9447名(68.0%)	9025名(64.6%)	34.648	0.000
大麻草グッズ所持者	296名(2.2%)	159名(1.1%)	46.174	0.000
ピアスをしている者	1261名(9.0%)	1087名(7.7%)	14.529	0.000
タトゥーをしている者	33名(0.2%)	25名(0.2%)	1.078	0.299

\*大麻、脱法ハーブ、覚せい剤、コカイン、MDMA

### 違法薬物使用経験と心理要因との関係

違法薬物使用経験と心理要因との関係を調べるために、同様な何らかの違法薬物使用の有無と岩佐らの日本語版「ソーシャル・サポート尺度」<sup>9)</sup>、Mimura & Griffithsの日本語版自尊感情尺度<sup>10,12)</sup>、鈴木と木野による多次元共感性尺度(MES)の被影響性尺度<sup>7)</sup>、精神的健康度を表すGeneral Health Questionnaire(GHQ)の12項目版<sup>8)</sup>との関係について、無回答者を除いてt検定で検討した。

これらの解析では、違法薬物使用経験の方が未使用者と比べて、社会的支援や被影響性が低いものの有意ではなく、自尊感情は有意に低く、精神的健康度は不良である傾向が認められた(表5)。

男女別の解析では、男性の違法薬物使用経験者は全対象者と類似した傾向がみられたが、精神的健康度は有意に不良であった(表6)。女性では、違法薬物使用経験者が少数であり、いずれも有意な関連はなかった(表7)。

### 2012年度と2014年度の主な調査結果の比較

2012年度<sup>2)</sup>と2014年度の調査で共通する項目から、両年度の結果の比較を行った(表8)。

その結果、今回の2014年度の調査では、2012年度と比較して、解析対象者はほぼ同数であったが、大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMAの何らかの違法薬物使用者が114名から66名へと有意に減少していた。違法薬物の興味もやや低下が認められた。違法薬物の入手が少しでも容易と思う者や周囲の違法薬物使用者は有意に増加していた。しかし、違法薬物使用の被勧誘経験者は軽度減少しており、親しい人からの違法薬物使用の勧誘を少しでも断らない者が有意に減少していた。ギャンブル・喫煙・飲酒習慣者はいずれも有意に

表9 多重ロジスティック回帰分析による違法薬物使用経験との関連要因

変数	偏回帰係数	標準誤差	オッズ比 (95% 信頼区間)	P
周囲の違法薬物使用 (なし/あり)	1.110	0.464	3.034 (1.221-7.540)	0.017
違法薬物使用の被勧誘経験 (なし/あり)	3.525	0.466	33.957 (13.612-84.708)	0.000
タトゥー (なし/あり)	3.638	0.824	37.998 (7.559-191.009)	0.000

(N=13049, NagelkerkeのR<sup>2</sup>: 0.210)

表10 多重ロジスティック回帰分析による男性の違法薬物使用経験との関連要因

変数	偏回帰係数	標準誤差	オッズ比 (95% 信頼区間)	P
周囲の違法薬物使用 (なし/あり)	1.426	0.472	4.164 (1.650-10.505)	0.003
違法薬物使用の被勧誘経験 (なし/あり)	2.751	0.498	15.664 (5.899-41.596)	0.000
タトゥー (なし/あり)	3.970	0.826	52.973 (8.620-325.532)	0.000
精神的健康度 (健康/不健康)	0.744	0.308	2.104 (1.150-3.849)	0.016

(N=9356, NagelkerkeのR<sup>2</sup>: 0.178)

表11 多重ロジスティック回帰分析による女性の違法薬物使用経験との関連要因

変数	偏回帰係数	標準誤差	オッズ比 (95% 信頼区間)	P
違法薬物使用の被勧誘経験 (なし/あり)	5.648	0.727	283.630 (68.268-1178.388)	0.000

(N=3848, NagelkerkeのR<sup>2</sup>: 0.244)

減少しており、大麻草グッズの所持者、ピアスの装飾者も有意に少なくなっていた。また、有意ではなかったが、タトゥーをしている者が減少していた。

その他、GHQ12項目版のGoldberg得点からみた精神的健康度に関しても、2012年の全対象者の2.2±7.6(平均±標準偏差)と比べて、2014年では2.1±7.3と有意に低下しており(t=-3.4, P<0.1)、2014年の精神的健康度は良好となっていた。

#### 多重ロジスティック回帰分析による違法薬物使用経験との関連要因

大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類の何らかの違法薬物使用経験の有無を従属変数、 $\chi^2$ 検定やFisher直接確率検定、あるいはt検定で何らかの違法薬物使用経験との関連傾向(P<0.1)を有する因子を独立変数とする多重ロジスティック回帰分析では、周囲の違法薬物使用(ない方と比べてある方)、違法薬物使用の被勧誘経験(ない方と比べてある方)、タトゥー(ない方と比べてある方)が有意に何らかの違法薬物使用経験と関連していた(表9)。なお、ピア

スは、ボディピアス装飾者が少数であったため、耳ピアス装飾者と併せて、ピアスがある者とした。

男性では、そうした項目に加えて、精神的健康度(健康な方と比べて不健康な方)が有意に違法薬物使用経験と関係していたが、女性では、違法薬物使用の被勧誘経験のみが違法薬物使用経験に関連していた(表10,11)。

#### 考察

今回の調査では、大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類の違法薬物使用経験者は69名(0.5%)であり、シンナー類だけの使用経験者が若干存在しているものの、前回2012年の調査結果<sup>2)</sup>と比べて使用経験者数が減少していた。前回の報告で示したような、他の大学生<sup>14)</sup>や一般住民<sup>15)</sup>の調査における使用経験率と比べて少ない割合である。こうした減少のために、違法薬物使用経験と有意に関連する因子は少なく、特に女性(11名)でその傾向が顕著であったが、前回の調査と比較するために今回も解析を行った。

その違法薬物使用経験に関連する、 $\chi^2$ 検定とFisher検定による因子は、性別、過程、違法薬物使用の興味、違法薬物の入手、周囲の違法薬物使用、違法薬物使用の被勧誘経験、親しい人からの違法薬物使用の勧誘への対応、ギャンブル・喫煙・飲酒習慣、大麻グッズの所持、ピアスやタトゥーなどであった。t検定では、違法薬物使用経験者が未使用者と比べて自尊心が有意に低く、精神的健康度は不良である傾向が認められた。これらの性別検討では、学生数が多い男性の傾向を主に反映しており、精神的健康度は男性の違法薬物使用経験者で有意に不良であった。女性では周囲の違法薬物使用、違法薬物使用の被勧誘経験、ピアスのみが違法薬物使用経験に関係していた。前回の調査<sup>2)</sup>では女性のギャンブル習慣が認められたが、今回はその習慣者が不在であったため含まれていなかった。

一方、多重ロジスティック回帰分析では、周囲の違法薬物使用、違法薬物使用の被勧誘経験、タトゥーが違法薬物使用経験に関係していた。男性ではさらに精神的健康度も関与していたが、女性は違法薬物使用の被勧誘経験だけが有意な因子として抽出され、解析対象者が少ないことに加えて、性別によって因子が異なることも示唆された。

2012年<sup>2)</sup>と2014年の調査の比較でも、シンナー類を除く他の種類の何らかの違法薬物使用経験者の実数は66名(0.5%)であり、やはり2012年度の114名(0.8%)と比べてかなり減少し、X大学における大学生の薬物

乱用傾向が低下していた。男性（92名から55名へ）も少なくなっていたが、女性（22名から11名へ）の使用者の減少が著しかった。

そうした違法薬物使用経験者の減少のためか、多重ロジスティック回帰分析によるシンナー類を含めた69名の違法薬物使用経験と有意に関連する要因は、周囲の違法薬物使用者の存在、違法薬物使用の被勧誘経験、タトゥーだけであった。すなわち、2012年度の調査結果<sup>2)</sup>よりも統計学的検出力が低下していたが、換言すれば、これらの因子は2012年と2014年のどちらの調査でも強固に薬物乱用と関連していることを示唆するものとも考えられる。

違法薬物使用経験者が減少した理由としては、2012年の調査<sup>2)</sup>での違法薬物使用経験者が少なからず卒業した可能性があることに加えて、薬物乱用の増加に伴って盛んになった高校以前や大学における薬物乱用防止教育が功を奏し、薬物乱用への関心が希薄化していたことが推測される。2012年と2014年の調査における同じ質問項目の比較において、今回の調査では、違法薬物入手の容易さや周囲の利用者は増加していたものの、違法薬物使用の興味がやや低下していることや、親しい人からの違法薬物使用の勧誘を少しでも断らない、ギャンブル・喫煙・飲酒習慣、大麻草グッズの所持、ピアス・タトゥーによる装飾などの違法薬物使用の危険因子の保有者が少なくなっていたことからもうなずける。2012年と比べて2014年の精神的健康度が良好であったことも、そうした可能性を支持する。

別の理由としては、2014年の調査当時の大学生の多くが、薬物乱用の社会問題化のために違法薬物への興味や使用を自粛していた可能性も考えられる。社会情勢の一例として、脱法（危険）ドラッグ使用の増加を背景として新たな乱用薬物の根絶を図るために、2014年4月1日から指定薬物の輸入製造、販売などに加えて、所持、使用、購入、譲り受けについても禁止し、違反した場合は3年以下の懲役又は300万円以下の罰金又は併科がなされることになった<sup>16)</sup>。このような背景が薬物乱用を抑制する方向に作用したことも考えられる。

その他、今回の調査では違法薬物名を特定して尋ねたために、正直に回答することに躊躇した可能性も完全には否定できない。

今回新たに実施した具体的な違法薬物使用に関する調査では、大麻の使用が最も多く、MDMAや脱法ハーブを含めて、覚せい剤、コカイン、シンナー類などの他の薬物の使用は比較的少なかった。そのため、大学生で

は大麻が最も身近な違法薬物であることを示唆する。吉本<sup>17)</sup>も、2008年までの薬物事犯での検挙者のうち、青少年が占める割合は覚せい剤よりも大麻の方が多く、2001年以降大学生の大麻検挙者数が覚せい剤検挙者数を上回っていることを報告している。

違法薬物使用の目的についても今回調査したが、「単なる興味」が最も多く、次いで「友人（恋人）から勧められて」、「ストレス解消」の順であった。精神保健研究所薬物依存研究部が2017年に実施した全国調査<sup>19)</sup>において、薬物使用経験がない理由として、「薬物に興味がないから」が77.2%と最多であったが、今回の結果はこれを逆の立場から裏付けるものである。吉本<sup>17)</sup>も、覚せい剤乱用と比べて、大麻乱用では法律への違法意識が低い者が多いこと、使用への好奇心を抱く者が多く、特に大学生で増加していることを指摘している。こうした「単なる興味」を抱かせないためには、心理面も考慮した薬物乱用防止教育を徹底させることが重要である。

タトゥーやピアス、大麻草グッズの所持、ギャンブル・喫煙習慣などが今回の調査でも違法薬物使用に関連する要因として認められるか否かに関しては、いずれも $\chi^2$ 検定とFisher検定で違法薬物使用経験と有意に関連していた。しかし、多重ロジスティック回帰分析では、タトゥーだけが有意な関連因子として抽出された。これは、それぞれの因子を有する者の減少や違法薬物使用経験者の減少による、統計学的検出力の低下に起因するように解され、タトゥー以外が違法薬物使用経験の危険因子であることが否定されるものではない。

ピアスに関しては、ボディピアス装飾者が少数であったことから、耳ピアスと併せて解析を行った。米国ではボディピアスがタトゥーに似た意味を持ち、ハードな薬物乱用や自殺などに関連していることが指摘<sup>9)</sup>されているが、今回の調査ではボディピアスの違法薬物乱用に関する検討はできなかった。

違法薬物使用経験の心理的背景については、多重ロジスティック回帰分析ではいずれも有意な関連がみられなかった。しかし、t検定では社会的支援や被影響性とは有意な関連がなかったものの、自尊感情の低さが有意に違法薬物使用経験と関連していた。社会的支援に関しては、前回の調査<sup>2)</sup>で情緒的支援がいくらか違法薬物使用に関係していたものの、今回の検討では有意な関連はなかった。そのため、前回のような情緒を中心とする支援が違法薬物使用に結びつきやすいのかもしれない。一方、自尊感情は予想通りの結果であった。海外の大学生の調査<sup>18)</sup>で、薬物乱用者は自尊感情が低下

していることが示されているが、今回の結果はそうした報告を支持する。自尊感情とならんで検討した被影響性は、周囲に対して感情的に反応しやすい者は、そうでない者よりも他者の心理状態について小さな刺激でも反応し、感情的に影響を受け易いとされる、他者の心理状態に対する素質的な反応である<sup>7)</sup>。いわば、自尊感情と対極的な関係にある。自尊感情の方が有意に違法薬物使用経験と関連していたため、被影響性の関与が少ない結果となったのかもしれない。

また、2012年の調査<sup>2)</sup>からの課題であった精神的健康度については、男性を中心に違法薬物使用経験の方が不健康であった。すなわち、理由は不明であるものの、前回の調査結果<sup>2)</sup>と異なり、予想に合致する結果であった。自尊感情が高いほど精神的健康度が良好であるとの報告<sup>19)</sup>があるため、精神的健康度と違法薬物使用経験は、自尊感情を介する結果とも考えられる。

これらの結果から、慎重な解釈を要するものの、全体的には心理的背景が不良な方が違法薬物を使用しやすい傾向があるように思われる。そのため、三好<sup>20)</sup>が指摘しているように、「学校教育のなかで、ライフスキル教育の充実を図り、青少年の自尊感情、自己効力感、ストレスマネジメント等を向上させることが、薬物乱用防止にも寄与することになる」ものと思われる。

今回の調査結果の解釈にあたっては、問題点も考慮しておく必要がある。まず、質問紙調査の限界として、回答を控えている場合や誇張して回答している場合などは確認できない。例えば、前回の調査<sup>2)</sup>では、全体的な違法薬物使用経験の有無を単一の質問項目で尋ねたが、今回は違法薬物使用経験を個別に調べたため、その回答の仕方まで観察できた。その結果、大麻・脱法ハーブ・覚せい剤・コカイン・MDMA・シンナー類いずれも使用経験があると回答した学生がみられたことから、違法薬物使用を誇張した学生が含まれていた可能性は否定できない。

次に、違法薬物使用経験は過去まで遡って調べているが、心理要因を含めた危険因子は現在を中心とした調査である。そのため、調査した心理要因が過去の使用経験をどの程度正確に反映しているかは定かではないものと考えられる。

以上、今回の調査では、約0.5%の大学生で違法薬物使用経験があり、主に周囲の違法薬物使用、違法薬物使用の被勧誘経験、タトゥーなどと結びついていたが、自尊感情や精神的健康度などの心理要因も重要と考えられた。性別では、男性の方が女性よりも違法薬物の使用

や興味と密接に関連していた。2012年度の調査<sup>2)</sup>と比較して、学生を取り巻く違法薬物の環境は改善しておらず、むしろ悪化していることが示唆されたが、違法薬物への興味や実際の使用は減少していた。

## 謝辞

今回の研究を実施するにあたってご協力頂いた松園美貴、戸田美紀子、野村桃子、田中朋子、梶谷康介、山本紀子、眞崎義憲、福盛英明、永野純、丸山徹、一宮厚の諸氏に深謝致します。

## 引用文献

- 1) 東京商工会議所 (2004): 地域社会 (コミュニティ) 再生とその方向性～「健康なまちづくり」から「健康な日本」へ～. (<https://www.tokyo-cci.or.jp/page.jsp?id=5411>) (参照日 2021年2月8日)
- 2) 入江正洋 (2020): 日本の大学生の薬物乱用に関する意識、実態とその背景. 健康科学, 42: 67-79.
- 3) 法務省 (2020): 第4章 諸外国における薬物事犯者処遇, 法務総合研究所研究部報告 62, 118-162.
- 4) 室城 隆之 (2010): 有機溶剤乱用(シンナー遊び) (若者と薬物乱用--ドラッグの闇から守るために)-- (薬物乱用の理解). 現代のエスプリ, 514: 33-44.
- 5) 岩佐 一, 権藤恭之, 増井幸恵, 稲垣宏樹, 河合千恵子, 大塚理加, 小川まどか, 高山 緑, 蘭牟田洋美, 鈴木隆雄 (2007): 日本語版「ソーシャル・サポート尺度」の信頼性ならびに妥当性—中高年を対象とした検討—. 厚生学の指標, 54: 26-33.
- 6) Rosenberg, M (1965): Society and adolescent self-image. New Jersey, Princeton University Press.
- 7) 鈴木 有美, 木野 和代 (2008): 多次元共感性尺度 (MES) の作成—自己指向・他者指向の弁別に焦点を当てて—. 教育心理学研究, 56: 487-497.
- 8) Goldberg, D. P. (1972): The detection of psychiatric illness by questionnaire. Maudsley Monograph No.21. London, Oxford University Press. (中川泰彬訳: 第1部 質問紙法による精神疾患患者の発見—精神・神経症状の診断法および評価法. 質問紙法による精神・神経症状の把握の理論と臨床応用. 国立精神衛生研究所モノグラフ, 市川, 1982.)
- 9) Laumann, A. E., and Derick, A. J. (2006): Tattoos and body piercings in the United States: A national data set. *Journal of the American Academy of Dermatology*, 55: 413-421.

- 10) Mimura, C., and Griffiths, P. (2007): A Japanese version of the Rosenberg Self-Esteem Scale: Translation and equivalence assessment. *Journal of Psychosomatic Research*, 62: 589-594.
- 11) Zimet, G. D, Dahlem, N. W., Zimet, S. G., and Farley, G. K. (1988): The Multidimensional Scale of Perceived Social Support. *Journal of Personality Assessment*, 52: 30-41.
- 12) 内田知宏, 上埜高志 (2010): Rosenberg 自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討. 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 58: 257-266.
- 13) 福西 勇夫 (1990): 日本語版 General Health Questionnaire (GHQ)の cut-off point. 心理臨床, 3: 228-234.
- 14) 西村由貴, 木島伸彦, 伊東裕司, 河邊博史 (2016): A 大学における学生の薬物乱用に関する調査結果—2015年度予備報告—. 慶應保健研究, 34: 23-28.
- 15) 嶋根卓也, 邱冬梅, 和田清 (2017) (2018): 薬物使用に関する全国住民調査 (2017年). 平成29年度厚生労働科学研究費補助金「医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業」薬物乱用・依存状況等のモニタリング調査と薬物依存症者・家族に対する回復支援に関する研究, pp7-148.
- 16) 永松裕幹 (2016): 薬物免責事項の解釈と適用. 保険学雑誌, 633: 127-147.
- 17) 吉本佐雅子 (2010): 大学生における大麻乱用の現状と予防対策. 大学と学生, 85: 37-46.
- 18) Arsandaux, J., Montagni, I., Macalli, M., Bouteloup, V., Tzourio, C., and Galéra, C. (2020): Health risk behaviors and self-esteem among college students: Systematic review of quantitative studies. *International Journal of Behavioral Medicine*, 27: 142-159.
- 19) Ruth, L. (2002): A longitudinal study of perceived level of stress, coping and self-esteem of undergraduate nursing students: An Australian case study. *Journal of Advanced Nursing*, 39: 119-126.
- 20) 三好美浩 (2010): 薬物乱用対策としての青少年への薬物乱用防止教育. 平成21年度インターネットによる「青少年の薬物乱用に関する調査」報告書, 68-72.